

## ロッシェの剰余項

・変数  $x$  の  $k$  次単項式を  $x^k (k \geq 0)$  と書く。ただし 0 次単項式は、 $x^0 \equiv 1$  と約束する。すなわち、 $0^0 = 1$ 。

・  $x = a$  における次テラー展開

$$p_{n-1}(x, a) = \sum_{k=0}^{n-1} \frac{f^{(k)}(a)}{k!} (x-a)^k \quad (1)$$

は  $f(x)$  の近似多項式である。その剰余項 (誤差) を

$$R_n(x, a) = f(x) - p_{n-1}(x, a) = f(x) - \sum_{k=0}^{n-1} \frac{f^{(k)}(a)}{k!} (x-a)^k \quad (2)$$

とする。関数  $f(x)$  が  $x = a$  の近くで  $n$  回微分可能のとき、

剰余項の様々な表現が知られている。例えば、

・ラグランジュの剰余項： $0 < \theta < 1$  が存在して

$$R_n(x, a) = \frac{f^{(n)}(a + \theta(x-a))}{n!} (x-a)^n, \quad (3)$$

・コーシーの剰余項： $0 < \theta < 1$  が存在して

$$R_n(x, a) = \frac{f^{(n)}(a + \theta(x-a))(1-\theta)^{n-1}}{(n-1)!} (x-a)^n. \quad (4)$$

ロッシェの剰余項はこれらの一般化である。

[定理] (ロッシェの剰余項) 先に述べた条件の下で、自

然数  $1 \leq p \leq n$  に対し、 $0 < \theta < 1$  が存在して、

$$R_n(x, a) = \frac{f^{(n)}(a + \theta(x-a))(1-\theta)^{n-p}}{p(n-1)!} (x-a)^n. \quad (5)$$

$p=1$  でコーシー、 $p=n$  でラグランジュの剰余項を得る。

(pr) 補助関数

$$F(x, y) = R_n(x, y) - \frac{(x-y)^p}{(x-a)^p} R_n(x, a) \quad (6)$$

において、 $x$  を定数と考える。 $F(x, y)$  の  $y$  に関する微分は

$$\frac{d}{dy} F(x, y) = \frac{d}{dy} R_n(x, y) + \frac{p(x-y)^{p-1}}{(x-a)^p} R_n(x, a). \quad (7)$$

$p_{n-1}(x, x) = f(x)$  であるから、式(6)より、

$$\begin{aligned} F(x, x) &= R_n(x, x) - \frac{(x-x)^p}{(x-x)^p} R_n(x, a) \\ &= f(x) - f(x) - \frac{0^p}{(x-x)^p} R_n(x, a) = 0. \end{aligned}$$

また  $y = a$  のとき、

$$\begin{aligned} F(x, a) &= R_n(x, a) - \frac{(x-a)^p}{(x-a)^p} R_n(x, a) \\ &= R_n(x, a) - R_n(x, a) = 0 = F(x, x). \end{aligned}$$

よって、ロルの定理より、ある  $c = a + \theta(x-a) (0 < \theta < 1)$

で、 $F'(x, c) = 0$  である。これと式(7)より、

$$0 = R'_n(x, c) + \frac{p(x-c)^{p-1}}{(x-a)^p} R_n(x, a).$$

すなわち、

$$R_n(x, a) = -\frac{(x-a)^p}{p(x-c)^{p-1}} R'_n(x, c). \quad (8)$$

下の補題より

$$R'_n(x, y) = -\frac{f^{(n)}(y)}{(n-1)!} (x-y)^{n-1}$$

を式(8)に代入して、

$$\begin{aligned} R_n(x, a) &= \frac{(x-a)^p}{p(x-c)^{p-1}} \frac{f^{(n)}(c)}{(n-1)!} (x-c)^{n-1} \\ &= \frac{f^{(n)}(c)}{p(n-1)!} \left(\frac{x-c}{x-a}\right)^{n-p} (x-a)^n. \end{aligned} \quad (9)$$

さらに、

$$\frac{x-c}{x-a} = \frac{x - \{a + \theta(x-a)\}}{x-a} = 1 - \theta$$

より、式(9)を得る。//

[補題]  $x$  を定数、 $y$  を変数と見なして剰余項  $R_n(x, y)$  を  $y$

で微分すると、

$$R'_n(x, y) = \frac{d}{dy} R_n(x, y) = -\frac{f^{(n)}(y)}{(n-1)!} (x-y)^{n-1}. \quad (10)$$

(証明) 式(2)より

$$\begin{aligned}
R_n(x,y) &= f(x) - \sum_{k=0}^{n-1} \frac{f^{(k)}(y)}{k!} (x-y)^k \\
&= R_{n-1}(x) - \frac{f^{(n-1)}(y)}{(n-1)!} (x-y)^{n-1}.
\end{aligned}$$

$n$  に関する帰納法を用いる.  $n=1$  のとき,

$$\frac{d}{dy} R_1(x,y) = \frac{d}{dy} (f(x) - f(y)) = -f'(y) = -\frac{f^{(1)}(y)}{0!} (x-y)^0$$

で成立. ある  $n > 1$  で,

$$\frac{d}{dy} R_{n-1}(x,y) = -\frac{f^{(n-1)}(y)}{(n-2)!} (x-y)^{n-2}$$

だとする. このとき, 積の微分則より,

$$\begin{aligned}
\frac{d}{dy} R_n(x,y) &= \frac{d}{dy} \left( R_{n-1}(x,y) - \frac{f^{(n-1)}(y)}{(n-1)!} (x-y)^{n-1} \right) \\
&= -\frac{f^{(n-1)}(y)}{(n-2)!} (x-y)^{n-2} \\
&\quad - \left( \frac{f^{(n)}(y)}{(n-1)!} (x-y)^{n-1} - \frac{f^{(n-1)}(y)}{(n-2)!} (x-y)^{n-2} \right) \\
&= -\frac{f^{(n)}(y)}{(n-1)!} (x-y)^{n-1}.
\end{aligned}$$

ゆえに, 全ての  $n \geq 1$  で式(14)が成立する. //